

# 目次

〔提言〕 王朝文学と東ユーラシア文化への招待／河添 房江	1
〔提言〕 漢字・漢語・漢文をとおしてつながる東ユーラシア／陣野 英則	9
渤海使節を迎えた平安皇権——『源氏物語』の一風景——……………	小山 利彦 15
一 はじめに 15	二 平安朝の渤海使節と文人貴族 16
	三 渤海使節を厚遇した天皇 22
四 渤海使節が列席した宮中行事 24	
桐壺皇権と春鶯囀の風景……………	小山 利彦 43
一 はじめに 43	二 花の宴の催された紫宸殿の風景 44
	三 皇統に関わる舞楽としての春鶯囀 49
四 むすびに 53	
平安物語と異国意識——『竹取物語』『うつほ物語』『源氏物語』を中心に——……………	河添 房江 57
一 はじめに 57	二 『竹取物語』の異国意識 58
	三 『うつほ物語』と異国意識 63
四 『源氏物語』の異国意識 68	五 終わりに——『狭衣物語』『栄花物語』からの反照—— 76

『うつほ物語』と『源氏物語』の学問——物語は読者を学問へといざなうか——	陣野 英則	83
一 はじめに 83	二 『うつほ物語』と『源氏物語』の学問、その共通点と相違点 85	
三 物語は読者を学問へといざなうか 96	四 おわりに 100	

『源氏物語』古注釈書にみる和漢の往還——『光源氏物語抄』所引漢籍考——	河野貴美子	105
-------------------------------------	-------	-----

一 はじめに 105	二 学問の基礎——小学—— 107	三 経史の書を引く注解 110
四 漢故事の和文化 114	五 『帝範』『臣軌』『貞観政要』 117	六 おわりに 121

和漢と三国Ⅱ——イメージの奔放と捨て置かれる現実の間で——	前田 雅之	133
-------------------------------	-------	-----

一 はじめに 133	二 梵と和の邂逅——婆羅門僧正と達磨—— 137
三 聖徳太子、玄奘、薩埵太子になれなかつた真如親王 148	四 おわりに 153

東ユーラシアにおける庭園と蓬萊——王朝庭園文学論序説——	袴田 光康	161
------------------------------	-------	-----

一 はじめに 161	二 海と庭園 162	三 中国における庭園と蓬萊 166
四 韓国と日本の庭園 172	五 まとめ——寝殿造庭園と王朝文学—— 176	

書物の所在と物語文学……	末沢 明子	183
--------------	-------	-----

一 はじめに 183	二 還御の贈り物 184	三 書物の所在——『うつほ物語』—— 187
四 書物の贈り物——『うつほ物語』—— 192	五 『源氏物語』の場合 196	
六 書物と物語文学 198		

『蒙求和歌』と『源氏物語』……	田坂 憲二	205
-----------------	-------	-----

一 はじめに 205	二 「董永自売」と帚木 206	三 「西施捧心」と夕顔 210
四 「蔣詡三径」「原憲桑枢」と蓬生 213	五 「樊会排闥」「漂母進食」と花散里 217	
六 おわりに 222		

『源氏物語』の準拠の方法——定子・楊貴妃・桐壺更衣——	山本 淳子	227
-----------------------------	-------	-----

一 はじめに 227	二 検証1——桐壺更衣と楊貴妃の径庭—— 228
三 検証2——定子と楊貴妃と桐壺更衣—— 232	四 検証3——定子の辞世—— 238
五 仮説——物語化と準拠の方法—— 245	

光源氏の明石転居と儒・道・神・仏——その逡巡の思想的背景——	岡部明日香	253
--------------------------------	-------	-----

一 はじめに 253	二 明石入道の来訪 254	三 須磨退去における儒仏神 255
四 「退きて答なし」と『老子』 259	五 『河海抄』の伝来の問題 267	
六 再び『源氏物語』へ 270	七 むすびに 272	

『うつほ物語』と仙界の音楽	277	正道寺康子	277
一 はじめに	277		
二 蓬萊山と音楽	278		
三 浦島説話と「神女之洞」の音楽	280		
四 三条京極邸における音楽の魔術——仙界の音楽を地上で再現——	284		
五 音楽と奇跡	294		
六 おわりに	295		

可能性としての『琴操』

——散文と韻文をいかに結合させるか、『伊勢物語』を軸にして——	303	原 豊二	303
一 はじめに——物語、詞書など——	303		
二 補助線としての『琴操』	304		
三 『琴操』と『伊勢物語』 その一	306		
四 『琴操』と『伊勢物語』 その二	311		
五 『大和物語』と『源氏物語』 構想の広がりと限界	316		
六 七絃琴と『琴操』の時代	320		
七 まとめに	323		

翁まろの涙——『枕草子』「上に候ふ御猫は」の段と随畜生譚——

一 はじめに	327	久保 堅一	327
二 転生譚としての「上に候ふ御猫は」の段	328		
三 随畜生譚(1)——『日本霊異記』			
随牛譚を中心に——	332		
四 随畜生譚(2)——漢訳仏典、『冥報記』所収話——	338		
五 懺悔の涙と救済の場	342		
六 おわりに	345		

『枕草子』「殿上より」の段の本文異同と前田家本の編纂方法	353	山中 悠希	353
——漢詩文をふまえた応酬をめぐって——			

一 はじめに	353		
二 「殿上より」の段の本文異同	354		
三 返答に苦慮する描出	359		
四 前田家本の編纂方法	365		
五 おわりに	368		

女が歴史を書くということ——東ユーラシアの中の『栄花物語』——

一 はじめに——一世紀の東ユーラシアと歴史編述——	377	桜井 宏徳	377
二 「女が書くこと」の展開と文字——日中の女性文学と平仮名をめぐって——	383		
三 仮名日記から『栄花物語』へ——朝鮮王朝の宮廷文学との比較に及ぶ——	388		
四 東ユーラシアから離脱する『栄花物語』——異国に関わる語彙の検討を通じて——	397		

院政期日本の文化的転換——『後二条師通記』から読む「契丹」——

一 はじめに——『後二条師通記』の「契丹」——	417	中丸 貴史	417
二 『後二条師通記』「中右記」「契丹」関連記事	418		
三 宋商「劉琨」関連記事	427		
四 事件の背景にあるもの	433		
五 院政期日本の文化的展開	440		

〔結辞〕 東ユーラシア文化論への展開 / 小山 利彦 451

執筆者紹介 463

